

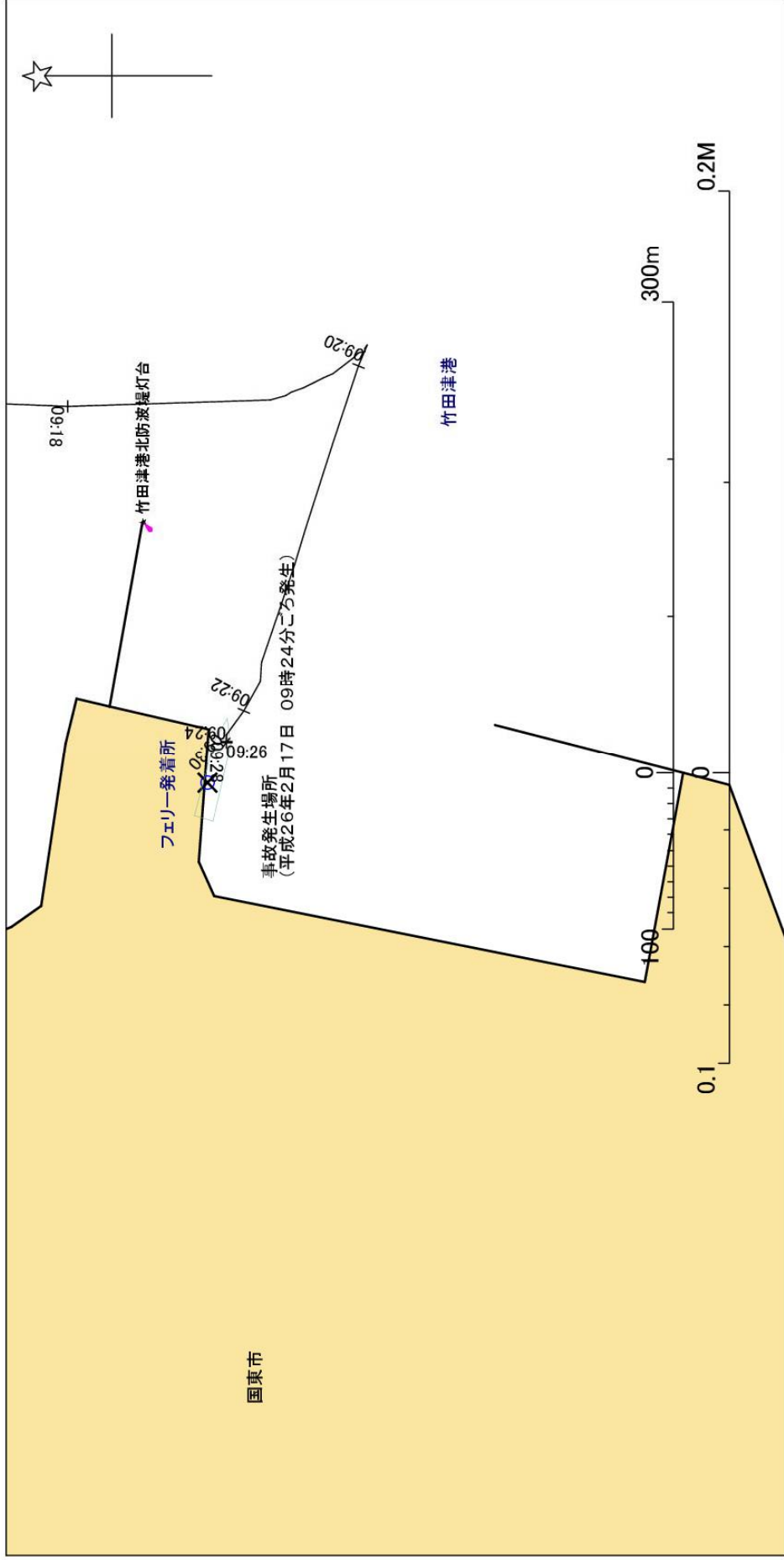
船舶事故等調査報告書

平成26年11月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故等番号	2014門第36号
事故等種類	衝突（岸壁）
発生日時	平成26年2月17日（月） 09時24分ごろ
発生場所	大分県国東市竹田津港 竹田津港北防波堤灯台から真方位256° 170m付近 （概位 北緯33° 40.7′ 東経131° 33.9′）
事故等調査の経過	平成26年3月24日、本事故の調査を担当する主管調査官（門司事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報	
船種船名、総トン数	旅客船兼自動車渡船 ニューくにさき、725トン
船舶番号、船舶所有者等	133520、周防灘フェリー株式会社
乗組員等に関する情報	船長、四級海技士（航海）
死傷者等	なし
損傷	本船 左舷船側鋼製防舷材が凹損 岸壁 なし
事故等の経過	<p>本船は、船長ほか7人が乗り組み、旅客8人を乗せ、車両5台を積載し、竹田津港のフェリー岸壁（以下「本件岸壁」という。）に出船左舷を、可動橋に船尾を着けるため、約0.1～0.2ノット（kn）の対地速力で後進していた。</p> <p>船長は、操舵室で操船の指揮を執り、甲板手が操舵を担当し、本件岸壁の着岸位置に近づいていたが、南から突風が吹き、本件岸壁側に圧流され、平成26年2月17日09時24分ごろ左舷中央付近船側が本件岸壁と衝突した。</p> <p>船長は、本件岸壁に着岸後、損傷箇所を調べ、鋼製防舷材の凹損のみであり、船体に損傷のないことを確認し、運航を続けた。 （付図1 推定航行経路図、付表1 AIS記録（抜粋） 参照）</p>
気象・海象	<p>気象：天気 晴れ、風向 南西、風力 1、視界 良好</p> <p>海象：潮汐 上げ潮の末期</p>
その他の事項	船長は、船首の電動スラストの電源スイッチを入れて、使用できるようにしていたが、突風であったので対応できなかった。
分析	
乗組員等の関与	なし
船体・機関等の関与	なし
気象・海象の関与	あり
判明した事項の解析	本船は、竹田津港において、本件岸壁に出船左舷着岸及び可動橋に船尾着橋しようとしていたとき、南からの風に圧流されたことから、

	左舷中央付近船側が本件岸壁に衝突したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が、竹田津港において、本件岸壁に出船左舷着岸及び可動橋に船尾着橋しようとしていたとき、南からの風に圧流されたため、左舷中央付近船側が本件岸壁に衝突したことにより発生したものと考えられる。
参考	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、気象情報に注意を払い、着岸時、突風の有無に留意し、余裕を持って操船すること。

付図1 推定航行経路図



付表1 AIS記録(抜粋)

時刻 (時:分:秒)	対地速力 (kn)	北緯 (度-分-秒)	東経 (度-分-秒)	対地針路 (°)	船首方位 (°)
09:20:01	1.9	33-40-40.3	131-34-07.0	290.4	110
09:21:06	4.8	33-40-41.8	131-34-01.2	287.4	106
09:22:07	1.0	33-40-42.6	131-33-58.5	303.9	109
09:23:26	0.3	33-40-43.0	131-33-57.9	297.6	103
09:24:08	0.2	33-40-43.0	131-33-57.7	280.8	104

注)船位は、船橋上部に設置されたGPSアンテナの位置である。